



みすずかる

須坂小学校だより

TEL : 026-245-0071

令和6年9月27日

花育特別授業

華道家の假屋崎省吾さんによる花育授業が行われました。当日は関係者の方をはじめ、多くの保護者や地域の方にも参観していただきました。最初に全校に向けたデモンストレーションを披露していただき、続いて6年生にブードルづくりのご指導をいただきました。最後に、假屋崎さんから「みんな100点満点！」と褒めていただけたほど、生け花に集中しながら楽しんだ6年生でした。

また、6年生は消防署の方から心肺蘇生法を教わる「いのちの教育」に取り組み、縦割り班活動のリーダー役としても活躍しています。特に縦割り班活動は、今月から支援学校の皆さんも加わりました。小学校と支援学校の両方のリーダーとして、頑張っています。



来年度からの下校時刻変更について（再掲）

現状の下校時刻は、高学年 15:55、低学年 15:05（水曜日は週による）ですが、来年度から下校時刻を20分程度早める方向で検討しています。学校の生活時間を整理して余剰時間を省いて子どもの負担を減らし、授業後や下校後の時間を有効に使えるようにすること、教員の働き方改革の一環として職員も余裕をもって子どもと接する環境をつくるのが主なねらいです。

今後も検討を重ね、来年度からの実施を目指しています。ご質問等ありましたら、学校へお寄せください。それをもとに検討し、11月26日(火)の全校参観日の折りに説明させていただきます。

9月12日(木)校長講話より

※当日は子どもたちとやりとりをしながら話したため、主旨のみ再構成してあります。

- ・オリンピックの次に行われたパラリンピック。パラリンピックは障がい者のオリンピックとも言われます。おなじみのスポーツの他、ボールゴール、ブラインドサッカー、ボッチャなど、オリンピックにはない競技もありました。特にゴールボールは、アイマスクをして完全に視界を遮り、ボールの中の小さな鈴の音だけでボールの行方を判断し、得点を奪い合っていました。しかも、お互いに見えない中で、ボールを弾ませて投げたり、コースだけでなくバウンドの高さまで判断して守ったり、とても自分にはできないと思えるすごい競技でした。

(子どもたちには、「パラリンピック種目を体験してみよう」という投げかけをし、校長講話が終わると実物のボールゴールのボールとブラインドサッカーのボールに各学級で触れる体験をしてもらいました)。

- ・そもそも、障がいって何だろう(これについては、各学級で担任と子どもたちで話をしてもらいました)。「障がい」の中に視覚障がいがあります。視覚障がいのある方の中には、白杖を持っている方がいます。この白杖を使って、さまざまな情報をキャッチして歩くのですが、このポーズを見たことはありますか？(当日は写真を使いましたが、右図は日本視覚障害者団体連合の推奨している「白杖 SOS シグナル」普及啓発シンボルマーク)。これは、「白杖SOSシグナル」です。「自分は、今、困っているので助けてください。」という合図です。この合図の意味を知っていれば、声をかけて助けになることができます。しかし、この合図の意味を知らないと、助けることができません。「知っている」ということはとても大切です。いろいろなことを知っていると、人を助けることだってできるのです。では、知らないと助けることができないかということ、そうではありません。知らないことに出会った時には「想像してみる」ことが大切です。例えば、大きなスクランブル交差点の中央で、音楽が鳴り止んでも渡りきれず、このポーズで立ち尽くしている人がいたとします。この合図の意味を知らなくても、「危ない！もしかしたら音楽が鳴り終わって方向が分からなくなって困ってるのかもしれない」と想像できれば助けることができるかもしれません。
- ・支援学校にはイヤーマフというヘッドフォンのようなものをつけているお友だちがいます。大きな音が苦手だったり、つけていることで落ち着けたりするお友だちです。それを知っていれば、自分の対応も考えられるはずです。実際に、先日のなかよしの時間(異学年縦割り班活動)には、イヤーマフやイヤーマフをつけたお友だちのことを知っていることで、上手に対応している仲間たちがいました。とても素敵な姿でした。
- ・「知る」ということが大事、知らないことはもったいない。わからないときには想像しよう。2学期は「なんだろう?」「なんでだろう?」を働かせた生活をしていきましょう。



(子どもたちには、各学級で白杖とイヤーマフも体験してもらいました)